

2課

感謝と祈りの理由

1月 10 日

安息日午後

1月 3 日

暗証聖句

そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。(ピリピ1:6、口語訳)

あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。(フィリピ1:6、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ(ピリピ) 1:1~18、Iコリント 13:1~8、エレミヤ 17:9、コロサイ 1:1~12、Iペトロ(ペテロ) 1:4、詩編(詩篇) 119:105、イザヤ 30:21

今週のテーマ

パウロは極めて意図的に、挨拶と感謝の言葉で彼の書簡を始めています。「わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしたちは、……わたしたちの主イエス・キリストの父である神に感謝しています」〔口語訳「わたしたちの父なる神から、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちは、……わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している〕(コロ1:2、3)。

パウロのように、私たちも感謝すべきことがたくさんあります。私たちは、天使でさえ理解できないような深遠な方法で、神の恵みを経験してきました。同様に、神との調和と神の愛から湧き出る希望を包む、神の平和という賜物についても当てはまります。

人間的なレベルでは、私たちは他者に感謝の気持ちを伝え、示し、人々が私たちの行ったことに対して感謝してくれることを望みます。親は、自分の子どもたちが神を愛し、今までないつか、彼らに最善の教育を受けさせるために払った犠牲を感謝してくれるようになります。しかし、人間である私たちは、多くの間違いを犯し、そこから学びます(少なくとも学ぶべきです)。

今週は、フィリピの信徒への手紙(ピリピ人への手紙)とコロサイの信徒への手紙(コロサイ人への手紙)におけるパウロの冒頭の感謝と祈りの言葉について考えます。それは、私たち自身の祈りの生活を豊かにし、強めるものとなるでしょう。

コロ 1:2、3 (新共同訳)

1:2 コロサイにいる聖なる者たち、キリストに結ばれている忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように。
1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父である神に感謝しています。

コロ 1:2、3 (口語訳)

1:2 コロサイにいる、キリストにある聖徒たち、忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父なる神から、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。
1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。

日曜日 1月4日 福音の交わり

問1 フィリピ(ピリピ) 1:3~8 を読んでください。パウロはどのように感謝していますか。パウロはフィリピ(ピリピ)の信徒に、どのような保証をしましたか。また、なぜそれは重要なのでしょうか。

パウロはフィリピ(ピリピ)の教会を設立しました。そのため、彼の手紙にはクリスチャンの交わりの温かさがあふれています。何百キロも離れた場所にありながら、鎖につながれ、投獄されていたパウロは、教会とその信徒を心にかけ続け、「キリスト・イエスの愛の心で」〔口語訳「キリスト・イエスの熱愛をもって〕(フィリ[ピリ]1:8)彼らを切望しているのです。パウロは、彼らのゆえに神に感謝しており、彼の感謝の祈りは、天において私たちのためにイエスが執り成してくださっていることを垣間見せています。

大祭司の胸當てには、イスラエルの十二部族をあらわす12個の石がありました。大祭司が彼らのために執り成しをするとき、民は彼の「胸に」(出28:29)あつたはずでした。それよりももっとすばらしく、天の聖所における私たちの大祭司であるイエスは、父なる神の前にご自分の民の名を携えているのです。

興味深いことに、フィリピ(ピリピ)1:3の言い回しは複数の意味を持ち、パウロとフィリピ(ピリピ)の信徒との親密な関係を強調しています。通常は、パウロが祈りの中で彼らを思い起こしていると訳されますが、彼らがパウロを思い起こしているとも読めるのです。いずれにせよ、彼らが共有する親密な相互関係を強調しており、「交わり」(ギリシア語で「コイノニア」という言葉もそれを強調しています。パウロがキリストの苦しみにあづかった〔【参考】 know … the fellowship of His sufferings キリストの苦しみの交わりを知る(苦しみ/患難にあづかる)〕ように(フィリ[ピリ]3:10)、フィリピ(ピリピ)の信徒もパウロの苦しみを「共にし」(ギリシア語で「シュンコイノーネオー」)、彼の宣教を支えるために経済的に負担を負い合いました(同4:14、15)。この相互関係が「最初の日から今日まで」〔口語訳「最初の日から今日に至るまで〕(同1:5)続いたので、パウロは彼らのゆえに神に感謝し、「喜びをもって」(同1:4)彼らのために祈ったのです。

興味深いことに、「福音を弁明し立証する」(フィリ[ピリ]1:7)機会を与えてくれた

と、パウロは獄中生活を極めて前向きに表現しています。パウロがこれら二つの法律用語を使っているのは、裁判が間近に迫っていることを示唆すると同時に、彼が兵士や訪問者に福音を積極的に伝えていることも示唆しています。攻撃に対して福音を弁明し(ギリシア語で「アポロギア」)、福音の永遠の真実性を立証することの両方が、必要なのです。パウロは、自分自身の将来よりも、福音の正しさを明らかにすることに心を碎いているようです。彼は、自分が生きるにせよ死ぬにせよ、神を信じるすべての人の中で神が始めた「善い業」〔口語訳「良いわざ〕(同1:6)を、神が成し遂げてくださることを確信しています。

【参考】英語テキストにある文

How do you understand the promise that God will finish the “good work in you” (Phil. 1:6)? What does that mean? Will this work ever end before the Second Coming?

神が「その(善い)業を成し遂げてくださる」〔口語訳「それ(良いわざ)を完成して下さる〕(フィリ〔ピリ〕1:6)という約束をあなたはどのように理解しますか。このわざは再臨前に終わるのでしょうか。

フィリ 1:3~8 (新共同訳)

1:3 わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、
1:4 あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。
1:5 それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。
1:6 あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。

1:7 わたしがあなたがた一同についてこのように考えるのは、当然です。というのは、監禁されているときも、福音を弁明し立証するときも、あなたがた一同のことを、共に恵みにあずかる者と思って、心に留めているからです。

1:8 わたしが、キリスト・イエスの愛の心で、あなたがた一同のことをどれほど思っているかは、神が証ししてくださいます。

出 28:29 (新共同訳)

28:29 このようにして、アロンは聖所に入るとき、裁きの胸当てにあるイスラエルの子らの名を胸に帯び、常に主の御前に記念とするのである。

フィリ 3:10 (新共同訳)

3:10 わたしは、キリストとその復活の力

ピリ 1:3~8 (口語訳)

1:3 わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの神に感謝し、
1:4 あなたがた一同のために祈るとき、いつも喜びをもって祈り、
1:5 あなたがたが最初の日から今日に至るまで、福音にあずかっていることを感謝している。
1:6 そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。

1:7 わたしが、あなたがた一同のために、そう考えるのは当然である。それは、わたしが獄に捕われている時にも、福音を弁明し立証する時にも、あなたがたをみな、共に恵みにあずかる者として、わたしの心に深く留めているからである。

1:8 わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなたがた一同を思っていることか、それを証明して下さるかたは神である。

出 28:29 (口語訳)

28:29 アロンが聖所にはいる時は、さばきの胸当にあるイスラエルの子たちの名をその胸に置き、主の前に常に覚えとしなければならない。

ピリ 3:10 (口語訳)

3:10 すなわち、キリストとその復活の力

とを知り、その苦しみにあづかって、その死の姿にあやかりながら、
フィリ 4:14、15（新共同訳）

4:14 それにもしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。
4:15 フィリピの人たち、あなたがたも知っているとおり、わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののやり取りでわたしの働きに参加した教会はあなたがたのほかに一つもありませんでした。

とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、
ピリ 4:14、15（口語訳）

4:14 しかし、あなたがたは、よくもわたしと患難を共にしてくれた。
4:15 ピリピの人たちよ。あなたがたも知っているとおり、わたしが福音を宣伝し始めたころ、マケドニヤから出かけて行った時、物のやりとりをしてわたしの働きに参加した教会は、あなたがたのほかには全く無かった。

月曜日 1月5日 パウロの祈りの願い

数年前のこと、ある牧師が、私、私、私と、自分の必要や願望を中心とした祈りについて語りました。彼は、それらを的確に「利己的な小さな祈り」と表現しました。なぜなら、神はもっと大きなことを考えられているからです。

問2 フィリピ（ピリピ）1:9～11 のパウロの祈りを読んでください。祈りの焦点はですか。彼はどのような大きな要求[requests 願い]をしていますか。そのことは、祈りについて何を教えてくれるでしょうか。

この祈りは、ギリシア語でわずか43語ですが、パウロの関心事をすべて要約しており、彼は書簡の残りの部分でそれらのことについて、すなわち、愛、知る力（深い知識）、見抜く力（するどい感覚）、清い者となること（純真なものとなること）、とがめられるところのない者となること（責められるところのないものとなること）、イエス・キリストによって与えられる義（イエス・キリストによる義）について詳しく述べています。この祈りとパウロの先の感謝の表現の根底にあるのは、教会全体の強調です。パウロの祈りは、完全に他者に焦点を合わせたものであり、教会全体の利益のため、その幸福のためのものです。祈りの個々の要素を、もう少し詳しく見てみましょう。

「愛がますます豊かになるように」〔口語訳「愛がいよいよ増し加わるよう」〕。パウロは、愛が单にますます豊かになるように祈るのでなく、特定の方向に——「知る力と見抜く力を身につけて」〔口語訳「深い知識において、するどい感覚において」、「in knowledge and all discernment」〕（フィリ〔ピリ〕1:9）——導かれるようにと祈っています。知る力（深い知識）とは、単に知的に知る力のことではなく、神との交わりと御言葉の研究によってのみ得られる、靈的な事柄を知る力（深い知識）を意味します（エphe〔エペ〕1:17、4:13、I テモ2:4参照）。

「見抜く力」〔口語訳「するどい感覚」〕。パウロはこれを、「本当に重要なことを見分ける」〔口語訳「何が重要であるかを判別する」〕（道徳的に有害なものと区別する）ことが

でき、「清い者、とがめられるところのない者」〔**口語訳「純真で責められるところのないもの」**〕(フィリ[ピリ]1:10)になることができる力と説明しています。

「清い者」〔**口語訳「純真」**〕となること。ギリシア語のこの原語は、「太陽の光で裁かれる」ことを意味し、汚れのない純粋な行為を指します。「クリスチャンが行うことはみな、太陽の光のように裏表のないものでなければならない」(『キリストを映しつつ』71ページ、英文)のです。

【参考】— Ellen G. White, Reflecting Christ, p. 71.

“judged by the sunlight” and refers to an untainted purity of action: “Everything that Christians do should be as transparent as the sunlight.”

「とがめられるところのない者」〔**口語訳「責められるところのないもの」**〕となること。これは、つまずきの石にならないこと、人が信じるのを難しくするような言動をしないことを意味します。「キリストによって与えられる義」〔**口語訳「キリストによる義」**〕。パウロは、ローマの信徒への手紙(ローマ人への手紙)とガラテヤの信徒への手紙(ガラテヤ人への手紙)でこれについて詳しく述べており、フィリピ(ピリピ)3章でもさらに詳しく説明しています。私たちは自分自身の義を持たず、キリストによって与えられる義(キリストによる義)だけを持っているのです。

【参考】英語テキストにある文

Whatever else we do, how can our love “abound still more and more” (Phil. 1:9, NKJV)? Why is that so important for the Christian life? (See also 1 Cor. 13:1–8.)

たとえ他に何をしようとも、どうして私たちの愛が「ますます豊かになる(いよいよ増し加わる)」のでしょうか(フィリ[ピリ]1:9)。なぜそれがクリスチャンの生活にとつてそれほど重要なのでしょうか?(参照: Iコリ 13:1-8)

13

フィリ 1:9～11 (新共同訳)

1:9 わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力を身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになります。

1:10 本当に重要なことを見分けられるように。そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのない者となり、

1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて、神の栄光と誉れとをたたえることができるようになります。

エフェ 1:17 (新共同訳)

1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との靈を与え、神を深く知ることができるようになります。

ピリ 1:9～11 (口語訳)

1:9 わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、

1:10 それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、

1:11 イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るようになります。

エペ 1:17 (口語訳)

1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との靈をあなたがたに賜わって神を認めさせ、

エフェ 4:13 (新共同訳)

4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

I テモ 2:4 (新共同訳)

2:4 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。

※フィリピ(ピリピ)3章はお手元の聖書をお読みください。

I コリ 13:1~8 (新共同訳)

13:1 たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

13:2 たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようと、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようと、愛がなければ、無に等しい。

13:3 全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

エペ 4:13 (口語訳)

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一一致と彼を知る知識の一一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

I テモ 2:4 (口語訳)

2:4 神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。

I コリ 13:1~8 (口語訳)

13:1 たといわしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鎧鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があつても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

火曜日 1月 6 日 靈的見抜く力の適用

フィリピ(ピリピ)の信徒は、パウロが投獄されたと聞いて動搖しました。今や、彼の働きは厳しく制限されていました。旅行も、説教もできません。会堂を訪れて、イエスがメシアであることを人々に教えることも、教会を立ち上げることもできませんでした。フィリピ(ピリピ)の信徒は、使徒の状態を確認し、彼を励まし、身体的な必要が満たされていることを確認するために、エパフロディト(口語訳:エペフロデト)を派遣しました。

問3 フィリピ(ピリピ)1:12～18 を読んでください。パウロは、自分が投獄されたことをどう見ていましたか。このような状況に置かれたにもかかわらず、私たちは彼の態度からどのような教訓を得ることができるでしょうか。

パウロが送ったメッセージは、フィリピ(ピリピ)の信徒を驚かせたに違いありません。彼は自分の状況をまったく違った視点から見ていました。パウロは、靈的な見抜く力(するどい感覚、見分ける力、判別する力)によって、投獄を良いことだと考えていたのです。それは彼の働きをまったく妨げず、「かえって福音の前進に役立った」〔口語訳「むしろ福音の前進に役立つようになった」〕(フィリ[ピリ]1:12)と言っています。ほかの人たちが鎖と鉄格子しか見なかったのに対し、パウロはローマの衛兵たちを神の国の潜在的な魂と見ていました。彼はまた、自分が投獄されたことによって、ほかの人たちが一層積極的に福音を広めようと決意し、結果を恐れることなくキリストのために大胆に語るようになったと考えていました。

想像しがたいかもしれません、実際に、パウロが投獄されたことで利益を得ようと考えた人たちもいました。どうやら彼らは、パウロが世間から忘れ去られ、自分たちと自分たちの福音の説教に、より注目が集まると考えたようです。教会においてさえ、人間が利己的であることを示す、なんと説得力のある悲しい実例でしょう。パウロよりずっと前に、「人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか」〔口語訳「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」〕(エレ17:9)と、エレミヤが言ったとおりです。

幸いなことに、それとは対照的に、忠実な働き手の中には、福音を広めることに一層熱心になった人たちもいました。彼らはパウロを愛していたので、彼が信仰のために耐え忍ぶ苦しみを見て、キリストをさらに信頼し、主のために一層積極的に行動するよう勇気づけられました。以前は怖くて行けなかったところへ行く力が与えられ、以前は沈黙していた状況でも話せるようになり、さらに多くの人がキリストを受け入れ、救いの福音は広まっていきました。

たとえ利益が目に見えない場合でも、私たちはどのようにして、それでも神を信頼することを学ぶことができるでしょうか。

【参考】英語テキストにある文

What lesson have you learned from experiences that, though unquestionably bad, also brought about some benefits? Even in cases in which a benefit might not be apparent, how can we learn to trust God regardless?

明らかに悪い経験ではあるものの、同時に何らかの益をもたらした経験から、あなたはどんな教訓を学びましたか。たとえ益が明らかでない場合でも、どうしたら神を信頼することを学ぶことができるでしょうか。

フィリ 1:12～18 （新共同訳）

1:12 兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。

1:13 つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、

1:14 主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。
1:15 キリストを宣べ伝えるのに、ねたみと争いの念にかられてする者もいれば、善意でする者もいます。

1:16 一方は、わたしが福音を弁明するために捕らわれているのを知って、愛の動機からそうするのですが、

1:17 他方は、自分の利益を求めて、獄中のわたしをいっそう苦しめようという不純な動機からキリストを告げ知らせているのです。

1:18 だが、それがなんであろう。口実であれ、真実であれ、とにかく、キリストが告げ知らされているのですから、わたしはそれを喜んでいます。これからも喜びます。

エレ 17:9 （新共同訳）

17:9 人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。

ピリ 1:12～18 （口語訳）

1:12 さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。

1:13 すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵営全体にもそのほかのすべての人々にも明らかになり、

1:14 そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。

1:15 一方では、ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり、他方では善意からそうする者がいる。

1:16 後者は、わたしが福音を弁明するために立てられていることを知り、愛の心でキリストを伝え、

1:17 前者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心からそうしている。

1:18 すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでいるし、また喜ぶであろう。

エレ 17:9 （口語訳）

17:9 心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。

水曜日 1月7日 福音の実

パウロとコロサイの信徒との関係は、フィリピ(ピリピ)の信徒との関係とは異なっていました。パウロは彼らを、「わたしとまだ直接顔を合わせたことのない」〔口語訳「直接にはまだ会ったことのない」〕(コロ2:1)人々の中に含めています。それでも彼らは、フィリピ(ピリピ)の信徒に対しても、彼らのゆえに神に感謝し、「いつも」彼らのために祈っていると断言しています。

問4 コロサイ1:3～8を読んでください。パウロは神に、どのような三つのことを感謝していますか。

パウロは、ほかの箇所で言及している三つの美德、つまり信仰、希望(望み)、愛をここでまとめています(Iコリ13:13、Iテサ1:3、5:8参照)。これらの美德がコロサイの信徒の功績にあるとパウロが思っていないことに注目してください。パウロは父なる神に感謝しています。なぜなら、ヤコブが言うように、それらの美德は神から与えられる「良い贈り物、完全な賜物」[口語訳「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物」](ヤコ1:17)だからです。神が私たちに対して抱いておられる愛を知るとき、私たちはキリストに対する信仰へと導かれ(エフェ2:4~8)、天国への希望を得ることができます。ペトロはそれを、「あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しほまない財産」[口語訳「あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず、汚れず、しほむことのない資産」](Iペト[ペテ]1:4)と表現しています。

パウロはまた、「真理の言葉」に基づいているがゆえに福音は信頼できると強調しています。これは、パウロが神の靈感を受けた言葉について、ほかの箇所でも用いている表現です(IIコリ6:7、IIテモ2:15参照)。「人の言葉」とは異なり、それは信じる者の中で「効果的に」(Iテサ2:13、英訳)働き、神の御旨を成し遂げます(イザ55:11)。ですから、福音が宣べ伝えられると、聞く人の心に聖靈が働くことによって神の力があらわれ、人々はそれに応答します。福音そのものが実を結ぶのは、福音が「命の言葉」(フィリ2:16、口語訳「いのちの言葉」[ピリ2:15])だからです。

最も驚くべきことは、これほど短期間に福音が広まったことかもしれません。キリストの死と復活から約30年も経ずに、福音は「世界中至るところ」[口語訳「世界中いたる所」](コロ1:6)に広まったと、パウロは言うことができました。同じ章の少しあとでは、福音が「世界中至るところの人々に宣べ伝えられ(た)」[口語訳「天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられた」](同1:23)と述べています。ローマ帝国の広範囲にわたる道路網は迅速な通信と旅行を可能にし、パウロの書簡がこれほど広く、速く回覧されたのはそのためです。しかし、人の内に靈的な命を生み出し(ヤコ1:18、Iペト1:23)、キリストにあって彼らを新しく創造するのは(IIコリ5:17)、御言葉を通して働く神の力です。

【参考】英語テキストにある文

In Colossians 1:5, Paul writes about “the hope which is laid up for you in heaven.” What is your understanding of that hope, and why does it apply to you personally, even though you are truly unworthy?

コロサイ1:5で、パウロは「あなたがたのために天に蓄えられている希望」[口語訳「あなたがたのために天にたくわえられている望み」]について書いています。あなたはその希望(望み)をどのように理解していますか。そして、あなたが本当にふさわしくないにもかかわらず、なぜそれがあなた個人に当てはまるのでしょうか。

コロ 2:1 (新共同訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人々のために、また、わたしとまだ直接顔を合わせたことのないすべて

コロ 2:1 (口語訳)

2:1 わたしが、あなたがたとラオディキアにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どん

の人のために、どれほど労苦して闘っているか、分かってほしい。

コロ 1:3~8 (新共同訳)

1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父である神に感謝しています。
1:4 あなたがたがキリスト・イエスにおいて持っている信仰と、すべての聖なる者たちに対して抱いている愛について、聞いたからです。

1:5 それは、あなたがたのために天に蓄えられている希望に基づくものであり、あなたがたは既にこの希望を、福音という真理の言葉を通して聞きました。

1:6 あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。

1:7 あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている仲間、愛するエパフラスから学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、

1:8 また、“靈”に基づくあなたがたの愛を知らせてくれた人です。

Iコリ 13:13 (新共同訳)

13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

Iテサ 1:3 (新共同訳)

1:3 あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。

Iテサ 5:8 (新共同訳)

5:8 しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいましょう。

ヤコ 1:17 (新共同訳)

1:17 良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。

なに苦闘しているか、わかつてもらいたい。

コロ 1:3~8 (口語訳)

1:3 わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神に感謝している。

1:4 これは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対していだいているあなたがたの愛とを、耳にしたからである。

1:5 この愛は、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基づくものであり、その望みについては、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によって聞いている。

1:6 そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。

1:7 あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエパフラスから学んだのであった。彼はあなたがたのためにキリストの忠実な奉仕者であつて、

1:8 あなたがたが御靈によっていだいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。

Iコリ 13:13 (口語訳)

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

Iテサ 1:3 (口語訳)

1:3 あなたがたの信仰の働きと、愛の労苦と、わたしたちの主イエス・キリストに対する望みの忍耐とを、わたしたちの父なる神のみまえに、絶えず思い起している。

Iテサ 5:8 (口語訳)

5:8 しかし、わたしたちは昼の者なのだから、信仰と愛との胸当を身につけ、救の望みのかぶとをかぶって、慎んでいよう。

ヤコ 1:17 (口語訳)

1:17 あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来

御父には、移り変わりも、天体の動きに
つれて生ずる陰もありません。

エフェ 2:4~8 (新共同訳)

2:4 しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、

2:5 罪のために死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——

2:6 キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。

2:7 こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈みにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。

2:8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

I ペト 1:4 (新共同訳)

1:4 また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しほまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。

IIコリ 6:7 (新共同訳)

6:7 真理の言葉、神の力によってそうしています。左右の手に義の武器を持ち、

IIテモ 2:15 (新共同訳)

2:15 あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。

I テサ 2:13 (新共同訳)

2:13 このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです。

イザ 55:11 (新共同訳)

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も/むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす。

る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。

エペ 2:4~8 (口語訳)

2:4 しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、

2:5 罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである

2:6 キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。

2:7 それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。

2:8 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。

I ペテ 1:4 (口語訳)

1:4 あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しほむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。

IIコリ 6:7 (口語訳)

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

IIテモ 2:15 (口語訳)

2:15 あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない鍛達した働き人になって、神に自分をささげるよう努めはげみなさい。

I テサ 2:13 (口語訳)

2:13 これらのことを考えて、わたしたちがまた絶えず神に感謝しているのは、あなたがたがわたしたちの説いた神の言を聞いた時に、それを人間の言葉としてではなく、神の言として——事実そのとおりであるが——受け入れてくれたことである。そして、この神の言は、信じるあなたがたのうちに働いているのである。

イザ 55:11 (口語訳)

55:11 そのように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。

フィリ 2:15、16 （新共同訳）

2:15 そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、

2:16 命の言葉をしっかりと保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。

コロ 1:6 （新共同訳）

1:6 あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。

コロ 1:23 （新共同訳）

1:23 ただし、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

ヤコ 1:18 （新共同訳）

1:18 御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。

I ペト 1:23 （新共同訳）

1:23 あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。

II コリ 5:17 （新共同訳）

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

コロ 1:5 （新共同訳）

1:5 それは、あなたがたのために天に蓄えられている希望に基づくものであり、あなたがたは既にこの希望を、福音という真理の言葉を通して聞きました。

ピリ 2:15、16 （口語訳）

2:15 それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。

2:16 このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走ったことがむだでなく、労したことむだではなかったと誇ることができる。

コロ 1:6 （口語訳）

1:6 そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。

コロ 1:23 （口語訳）

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

ヤコ 1:18 （口語訳）

1:18 父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである。

I ペテ 1:23 （口語訳）

1:23 あなたがたが新たに生れたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生ける御言によったのである。

II コリ 5:17 （口語訳）

5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。

コロ 1:5 （口語訳）

1:5 この愛は、あなたがたのために天にたくわえられている希望に基くものであり、その希望については、あなたがたはすでに、あなたがたのところまで伝えられた福音の真理の言葉によって聞いている。

問5 コロサイ 1:9～12 を読んでください。パウロの祈りには、どのような具体的願いが込められていますか。

パウロは、「神の御心を十分悟(る)」〔口語訳「神の御旨を深く知(る)」〕ことができるようにと祈り、神の御心を知ることを「靈」によるあらゆる知恵と理解〔口語訳「あらゆる靈的な知恵と理解力」〕(コロ1:9)と表現しています。知恵はまず、神を全面的に信頼し、神の御心を喜んで行い(ヨハ7:17)、自分の分別に頼らない〔口語訳「自分の知識にたよってはならない」〕(箴言3:5)ことによってもたらされます。しかし、「この状況において、神の御心は何だろうか」という疑問がしばしば生じます。神の御心を求めるとき、それを知ることができる情報源は、おもに四つあります。

- (1) 知恵の最も重要な源は、聖書そのものです。「あなたの御言葉は、わたしの道の光/わたしの歩みを照らす灯」〔口語訳「あなたののみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」〕(詩編[詩篇]119:105)。
- (2) 神は、エレン・ホワイトの著作を通して示された預言の靈を通して(黙示録12:17、19:10)、終わりの日に特別な知恵を私たちに与えてくださいました。聖書はこう勧めています。「あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる」〔口語訳「あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」〕(歴代誌下 20:20)。
- (3) 神の御心と導きは、摂理的な状況を通して、扉を開けたり閉じたりしてくださいと神にお願いすることでも知ることができます(コロ4:3 参照)。
- (4) 聖靈は、私たちがその声を認識できるようになると、私たちを導いてくださいます。「あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。『これが行くべき道だ、ここを歩け/右に行け、左に行け』と」〔口語訳「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで「これは道だ、これに歩め」と言う言葉を耳に聞く」〕(イザ30:21)。

パウロは、コロサイの信徒が「主にふさわしく歩(む)」(コロ1:10、英訳 “walk worthy of the Lord”)ようにと祈っています。言うまでもなく、生まれつき「主にふさわしい」人などいませんが、神は恵みによって私たちをふさわしい者と見なし、その高き召しに従って生きるように呼びかけておられます(エフェ[エペ]4:1、I テサ 2:12)。パウロはこの手紙の中だけでも、「歩く」または「歩いた」という動詞をあと3回用いています(コロ2:6、3:7、4:5〔4:5の和訳は、「ふるまう」「行動する」〕)。それは、神の律法に従って生き、行動することを意味し(出18:20)、聖靈の働きを通してのみ可能なのです(エゼ36:27)。

パウロはまた、彼らの(そして、私たちの)人生が主に「すべての点で喜ばれる」〔口語訳「真に主を喜ばせ(る)〕(コロ1:10)ものとなるように祈り、そうなるための方法をいくつか挙げています。すなわち、「あらゆる善い業を行って実を結び」〔口語訳「あらゆる良いわざを行って実を結び〕(同1:10)、次に「神をますます深く知(り)」〔口語訳「神を知る知識をいよいよ増し加えるに至る〕(同1:10)、そして最後に、「感謝する」(同1:12)ということです。

【参考】英語テキストにある文

If someone were to ask you, “How do you know that God is leading you in one direction or another?” how would you answer—and why?

もし誰かに「神が何らかの形であなたを導いているとどうして分かるのですか」と尋ねられたら、あなたはどう答えますか。そしてその理由は何ですか。

16

コロ 1:9～12 (新共同訳)

1:9 こういうわけで、そのことを聞いたときから、わたしたちは、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、「靈」によるあらゆる知恵と理解によって、神の御心を十分悟り、

1:10 すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。

1:11 そして、神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。喜びをもって、

1:12 光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。

ヨハ 7:17 (新共同訳)

7:17 この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。

箴 3:5 (新共同訳)

3:5 心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず

詩 119:105 (新共同訳)

119:105 あなたの御言葉は、わたしの道の光/わたしの歩みを照らす灯。

黙 12:17 (新共同訳)

12:17 龍は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った。

コロ 1:9～12 (口語訳)

1:9 そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる靈的な知恵と理解力をもって、神の御旨を深く知り、

1:10 主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。

1:11 更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び、

1:12 光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。

ヨハ 7:17 (口語訳)

7:17 神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。

箴 3:5 (口語訳)

3:5 心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

詩 119:105 (口語訳)

119:105 あなたの御言葉はわが足のともしひ、わが道の光です。

黙 12:17 (口語訳)

12:17 龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。

黙 19:10 （新共同訳）

19:10 わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の靈なのだ。」

代下 20:20 （新共同訳）

20:20 翌朝早く、彼らはテコアの荒れ野に向かって出て行った。出て行くとき、ヨシャファトは立って言った。「ユダとエルサレムの住民よ、聞け。あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」

コロ 4:3 （新共同訳）

4:3 同時にわたしたちのために祈ってください。神が御言葉のために門を開いてください、わたしたちがキリストの秘められた計画を語ることができるようになります。このために、わたしは牢につながれています。

イザ 30:21 （新共同訳）

30:21 あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。「これが行くべき道だ、ここを歩け/右に行け、左に行け」と。

エフェ 4:1 （新共同訳）

4:1 そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、

I テサ 2:12 （新共同訳）

2:12 呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたでした。御自身の国と栄光にあづからせようと、神はあなたがたを招いておられます。

コロ 2:6 （新共同訳）

2:6 あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。

コロ 3:7 （新共同訳）

3:7 あなたがたも、以前このようなことの中にいたときには、それに従って歩んでいました。

コロ 4:5 （新共同訳）

4:5 時をよく用い、外部の人に対して賢

黙 19:10 （口語訳）

19:10 そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしごとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である。」

代下 20:20 （口語訳）

20:20 彼らは朝早く起きてテコアの野に出て行った。その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、「ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう。」

コロ 4:3 （口語訳）

4:3 同時にわたしたちのためにも、神が御言のために門を開いて下さって、わたしたちがキリストの奥義を語れるように（わたしは、実は、そのために獄につながれているのである）、

イザ 30:21 （口語訳）

30:21 また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで「これは道だ、これに歩め」と言う言葉を耳に聞く。

エペ 4:1 （口語訳）

4:1 さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、

I テサ 2:12 （口語訳）

2:12 御国とその栄光とに召して下さった神のみこころにかなって歩くようにと、勧め、励まし、また、さとしたのである。

コロ 2:6 （口語訳）

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。

コロ 3:7 （口語訳）

3:7 あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。

コロ 4:5 （口語訳）

4:5 今の時を生かして用い、そとの人に

くふるまいなさい。

出 18:20 (新共同訳)

18:20 彼らに掟と指示を示して、彼らの歩むべき道となすべき事を教えなさい。

エゼ 36:27 (新共同訳)

36:27 また、わたしの靈をお前たちの中に置き、わたしの掟に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる。

対して賢く行動しなさい。

出 18:20 (口語訳)

18:20 あなたは彼らに定めと判決を教え、彼らの歩むべき道と、なすべき事を彼らに知らせなさい。

エゼ 36:27 (口語訳)

36:27 わたしはまたわが靈をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。

金曜日 1月9日 さらなる研究

未来のためにはっきりした計画が立てられない人が多いが、その生涯は定まらず、事の結果を見抜くことができず、そのために憂慮と不安に満たされる場合がよくある。この地上における神の子の生涯は、さすらいの生涯であることを覚えよう。わたしたちには、自分の生涯を計画立てる知恵もなく、また、未来を定めるのも、わたしたちのなすべきことではない。『信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです』〔口語訳『信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った』(ヘブライ[ヘブル]人への手紙11章8節)。〕

キリストは地上の生活で、ご自分のためには何一つ計画を立てず、キリストのために神が立てられた計画を受け入れ、天の父が日々それをお示しになった。そのように、わたしたちも神に信頼し、その生活が神のみ旨の実現となるようにしなければならない。自分の道を神に任せると、神はわたしたちの歩みを導かれるのである。

輝かしい未来を計画しても、完全に失敗に帰する人が実際に多い。神に自分の計画をゆだねるがよい。『主の慈しみに生きる者の足を』〔『主はその聖徒たちの足を』〕守られる神の導きに、幼児のように頼るのがよい(サムエル記上2章9節)。もしも、神の子どもが最初から事の終わりを見ることができ、神と共に働く者として果たしている仕事の栄光を認めることができたならば、神が導かれる道は、自分たちが導いてほしいと望んでいる道にほかならないことがわかる」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング』新装版 320、321ページ)。

話し合いのための質問

- ① 過去1週間を思い返して、あなたが感謝していることをリストアップしてください。あなたが思っている以上に、感謝すべきことがあるかもしれません。

- ② 金曜日のエレン・ホワイトの引用文のうち、最後の1行について、じっくり考えてみてください。これは非常に力強い信仰の言葉です。どうすれば、神を深く信頼できるようになるのでしょうか。
- ③ コロサイ1:6、23を踏まえて、次の言葉について話し合ってください。「不信、つぶやき、反逆が、古代イスラエルをカナンの地から40年間閉め出したのです。同じ罪が、現代のイスラエルが天のカナンに入ることを遅らせています。どちらの場合も神の約束に誤りはないのです。私たちをこの罪の悲しみの世にこんなに長くとどめているのは、主の民と言っている人々の不信、世俗性、献身の欠如や争いのためです」(『終わりの時代の諸事件』35ページ)。現代の私たちは、どのような点で同じ罪を犯している可能性がありますか。

17

ヘブ 11:8 (新共同訳)

11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。

サム上 2:9 (新共同訳)

2:9 主の慈しみに生きる者の足を主は守り/主に逆らう者を闇の沈黙に落とされる。人は力によって勝つのではない。

コロ 1:6、23 (新共同訳)

1:6 あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

ヘブ 11:8 (口語訳)

11:8 信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行つた。

サム上 2:9 (口語訳)

2:9 主はその聖徒たちの足を守られる、しかし悪いものどもは暗黒のうちに滅びる。人は力をもって勝つことができないからである。

コロ 1:6、23 (口語訳)

1:6 そして、この福音は、世界中いたる所でそうであるように、あなたがたのところでも、これを聞いて神の恵みを知ったとき以来、実を結んで成長しているのである。

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであつて、それにこのパウロが奉仕しているのである。